平成 28 年 1 月 18 日

武南高等学校進路通信　第 10 号

進路指導部

マーク→記述への切り替えを

センター試験お疲れさま。いますぐに国公立の 2 次試験，私立大学個別試験に向けての切り替えが必要です。志望校合格に向けて，注意をまとめてみましたので参考にしてください。

「マーク」から「記述」へ頭を切り替える

一番の特効薬……それは模試復習。

今までセンター試験中心の勉強をしていたのだから、頭の働きもそれに対応したものになっている。１日も早く記述問題へ対応できるように切り替えることが必要。それには過去に受けた記述模試の復習に取り組むのが一番だ。理由としては、次の３つが挙げられる。

(1) すぐに取り組むことができ、答案作成力を鍛えることができる
(2) 時間を計って取り組めば、時間配分の練習ができる
(3) 解答解説を読めば、復習＝弱点補強になる

センター試験の結果を引きずらない

過ぎ去ったことを悔やんでも得点にはつながらない。（安易に浪人を考えるな。）

センター試験で思わしくない結果だった人は、終わったことをいつまでも引きずらないようにしよう。過ぎ去ったセンター試験の結果を悔やんでいても得点は上がらない。それよりも、これからの個別学力検査や私立大入試に向けた対策に目を向けることが大切。特に国公立大が本命の人は、併願する私立大の入試対策が不足しているだろうから、これから全力を尽くして取り組むようにしよう。そういった前向きな気持ちが、個別学力検査にも生きてくるはずだ。

過去問演習や大学案内で気持ちを切り替える

バラエティーに富んだ個別学力検査・私立大の過去問で頭を切り替える。

個別学力検査・私立大入試は、さまざまな出題範囲・内容に渡っている。これに対応するには赤本等で過去問をじっくりと解いてみるのが良い。繰り返し解いているうちに、その大学の傾向もつかめてくるから、受験準備にはもってこいの材料だ。

また、勉強の合間に志望校の大学案内を見るのも気分の切り替えにいい。この時期に見直すことによって、志望校に合格したいという気持ちが一層強くなり、新たな気持ちで勉強に打ち込めるだろう。

受験する大学ごとに資料を袋分けする

募集要項・受験票などは、大学ごとに袋に入れて、まとめておこう。

大学を何校も受験する人は多いだろうが、資料はきちんと整理しておきたい。募集要項・受験票などは、大学ごとに袋に入れて、ひとまとめにしておこう。こうすれば、直前に受験票が見当たらなくて焦ったり慌てたりすることもなく、安心して受験に臨めるはず。そして、当日は問題を解くことだけに集中できる。試験直前は精神的に安定していることが何よりも大切だ。

友達と受験報告会をして気分転換

それぞれの目標に向かって頑張っている友達の姿は一番の励みになる！

家庭研修という形で自宅学習になると、いつも一緒にいた友達と会えなくなって寂しくなるかも知れない。そこで、時間を作って会うとか、同じ大学を受ける友達と途中経過の報告会を開くのも、刺激になっていい。時間が合わなければ電話やメールでもよい。友達が頑張っている姿を見て気持ちを高めていこう。

ただし、それに時間を取り過ぎるのはよくない。グチの言い合いなどで時間をつぶしていると逆効果にもなりかねないので注意。（時間を決めよう。）

絶対に最後まであきらめない

後期試験まで頑張る。その気持ちが合格につながる。

国公立大入試は**後期試験まで勝負**。前期試験で終わったと思ってはいけない。なぜなら、現役生の成績は、これからまだまだ伸びていくからだ。後期試験までが入試と考えて、最後まで頑張る気持ちを切らさずに粘って勉強しよう。センター試験後や前期試験終了後に、いかに次の勉強に頭を切り替えられるかが合格のカギを握っている。今の学習を信じて最後まで頑張ろう。（**後期試験を受験せず、合格をあきらめるのはもったいない。**）